

教会の七つの柱④ —— 聖餐（パンを裂くこと）

彼らは使徒たちの教えを堅く守り、交わりをなし、パンを裂き、祈りをしていた。（使徒 2:42）

そして、毎日ひたすら心をつにして神殿に集まり、家ではパンを裂き、喜びと真心をもって食事を共にし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加えてくださったのである。（使徒 2:46-47）

主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげてそれを裂き、こう言われました。

これは、あなたがたのための私の体である。私の記念としてこのように行いなさい。

この杯は、私の血による新しい契約である。飲む度に、私の記念としてこれを行いなさい。

（I コリント 11:24, 25）

今日のテーマは、七つの柱の第四——「聖餐（パンを裂くこと）」です。初代教会の人々は、御言葉に学び、祈り、交わりを持ち、さらにパンを裂く礼拝を大切にしていました。「パンを裂く」とは、単なる食事ではなく、キリストの十字架の恵みにあずかる行為を意味します。この行為こそ、教会が「キリストのからだ」としてひとつに結ばれる中心でした。

「パンを裂く」という行動は、初代教会において二重の意味を持っていました。一つは、日常の食卓の交わり。もう一つは、主イエスが制定された聖餐の記念です。使徒 2:46 にあるように、人々は喜びと真心をもって共にパンを裂きました。それは、単なる儀式ではなく、感謝と愛に満ちた礼拝の場だったのです。

パウロは I コリント 11 章で、聖餐の本質を「主の死を告げ知らせる」と語ります。聖餐は、イエス・キリストの十字架の出来事をただ思い出すためのものではありません。それは、今も生きて働くキリストの恵みにあずかる時間です。パンを裂き杯を分け合うとき、私たちは「主が私のために裂かれた」という現実の中に立ちます。そこには、赦しと回復、そして新しい命の約束が息づいています。

教会が聖餐を守るのは、形式のためではありません。それは、「主の死と復活にあずかる交わり」だからです。同じパンを裂き、同じ杯を分け合う——そのとき、私たちは主と、兄弟姉妹と、ひとつに結ばれます。どんなに時代が変わっても、この聖餐の恵みは教会のいのちの中心です。パンを裂くたびに、主は私たちに「あなたのために裂かれた」愛を思い起こさせてくださいます。

私たちもまた、この食卓に招かれています。過去の罪も、今の弱さも包み込んでくださる主の恵みの中へ。聖餐は、悔い改めの場であり、感謝の場であり、新しい始まりの食卓です。

「主よ、今日もあなたの十字架にあずかる者として歩ませてください。」

その祈りと共に、私たちはこのパンを受け取りましょう。

分かち合いの問い：

- ① 聖餐のとき、あなたはどんな思いでパンと杯を受け取りますか？
- ② 聖餐を「キリストとの交わり」として、どのように深めていきたいですか？